

曹洞俳壇

選・村松五灰子

われにしか読めぬ字ばかり日記果つ

北海道 大野 節子

評 我が日々の心の動きやありどころ、また生活を綴る日記が今年も終わった。誰のためでもない自分を見つめる日記。慈しみの滲んだ一句。

箸の穴冬至南瓜の煮え上がる

東京都 長谷川 瞳

評 「箸の穴」で一気に完成した一句。ほっこりと煮えた南瓜。家族の健康を願う心、美味しさもたっぷり感。無駄のない表現が生きている。

◆冬至粥九十二歳を越した朝

静岡県 富岡 一郎

◆ちちははの遺影のそふち冬座敷

岩手県 上沖 貞子

◆笹鳴ひて雲の流れの速さかな

長崎県 崎田 定雄

◆手を止めて行方確かむ雪ばんば

長野県 下島 博

◆池の上えに身を乗り出して松手入

大阪府 数藤 茂

◆真まっ直ちぐに胸に受けたる初日の出

大阪府 柏原 才子

◆満まん目の落葉もみぢに子等の転がれり

島根県 藤江 堯

◆探幽たんゆうの虎が水飲む紅葉寺

宮城県 鎌田登喜子

◆鯪かん鱈たうの七つ道具の晒し売り

茨城県 鈴木 米征

◆ありがたや松茸いんげん入りのお雑煮を

ロスアンゼルス 井上 健一

*選者吟

運針の指美しく春炬燵

五灰子

*作句小見

第三句、九十二才いんげん寿冬至粥。四句偲おぼび遙かに。五句鶯の子、雲にこの頃の季節感。六句雪ばんば(綿虫)。十一句骨以外の可食部分を七つ道具。十二句ロスアンゼルス井上氏ふると日本の味松茸の有り難さもひとしお。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

霜深し朝を焚く火に刈りくべてほのかに匂
ふ庭の枯れ菊 長野県 毛涯 潤

評 霜のおりた朝の焚火に庭の枯れ菊を焼べたらほのかに良い香がしたと詠う。都会住まいでは考えられない雅趣を帯びた郷愁を感じさせる一首。ちらちらと燃える火に残菊のくすんだ色が見え隠れする。初冬の朝の感覚の冴えがある。

大雪さへ降らねば都と空を見つ一人暮らしは
ことさら思ふ 福島県 西木 甚

評 雪国の冬の厳しさが沁みじみ伝わってくる。一人暮らしなれば尚更のことだろう。かといって故郷を疎んでいいるのではなく都とも思っている。そこに味わいがある。

◆四年目の五十沢の地のあんぼ柿万のすだれが空にかがよ
◆突堤に整い並ぶ海猫の羽が去れば一羽が来たる
福島県 大槻 弘
東京都 野村 信廣

◆おんぶせし背にぬくもり残りゐるかの日の女孫に母の微笑み
福井県 三浦 豊子
◆姫婆羅の木は直ぐ立ちぬ老いながら幹なめらかに老醜見せず
三重県 小阪 晋

◆帰省子の箸真つ先に棒鱈煮母の馳走に笑みを返して
新潟県 星野 三典

◆婆ちゃんの手掛けた野菜ばかりだよ囲むお鍋にほくほくするも
愛知県 深谷ハネ子

◆百五十日見回りし稲雑作なく音弾ませてコンパインは刈る
岩手県 穴戸さとる

◆地下鉄の冷たい風が階段をかけおり僕の首に抱きつく
福岡県 三吉 誠

◆手に取ればみんな遊びになる子供顔に似てると虫食い葉つば
奈良県 鈴木 重雄

◆鯛や鯨整然と分けそれぞれに囁声高し笑ひも交へ
三重県 山下 利夫

*選者詠

はすかいに大つごもりの空を分け風がぐんぐんのぼりゆくなり
ちづ

*作歌小見

大雪に悩まされている土地の方には申し訳ないくらい湘南の冬晴れの大晦日、空を二分けにして風が上ってゆき、新旧の年を分かつ勢いを感じました。今年も様々な地域の方々の暮らしに即した歌を拝見出来るのを楽しみにしております。



大本山永平寺



『山門』 永平寺の正面玄関

春間近とはいえ、まだまだ寒く雪がちらつくこの時期の早朝、永平寺の山門には、網代笠に墨染の衣と着物を身にまとい、裾を上げ袖をまくり草履を履いた格好で寒さに身体を震わせながら入山を乞う修行僧の姿があります。その山門正面の両柱には、長い木の板に書かれている言葉があります。

家庭巖峻不容陸老從真門入

(家庭巖峻、陸老の真門より入るを容さず)

鎖鑰放閑遮莫善財進一步来

(鎖鑰放閑、遮莫善財の一步を進め来るに)

この意味は、陸老とは中国宋代の陸という役人のことで、「永平寺を一つの家庭とみた時、その家風は巖格であり、陸のような名誉・地位・財産をもち仏教にも功績のある人物だとしても、本当に修行を志す者でなければ入ることは許されない。法を求める心ある者であれば山門はいつでも開かれている。という意味で、仏道修行において基本的な心構えを説いたものです。

三月は永平寺山門に、不安や戸惑い様々な思いを胸に抱えながらも、強い志で入山の許可を待つ新しい修行僧の立ち並ぶ時節でございます。



大本山總持寺



全国徒弟研修会 with 国際子ども禅のつどい

山内あちこちで今春上山した新しい修行僧の元気な声が響くようになり、春の息吹を感じる時節となりました。

さて、いよいよ大遠忌御正當幕開けの事業として、三月二十六日（木）から二十八日（土）にかけて紫雲臺猊下御親修による「全国徒弟研修会 with 国際子ども禅のつどい」未来に向けての大きな足音」が開催されます。これは全国曹洞宗青年会四十周年記念として行われるもので、まさに大遠忌のスタートにふさわしい事業です。

また東日本大震災から四年が経過した今年も、十五日（日）午後二時より鶴見大学体育館に於いて、「祈りの夕べ」が開催されます。

当日は江川禅師さま大導師のもと物故者供養・復興祈願法要が修された後、福島県立安積黎明高校合唱団によるコンサートと村上美保子さんの紙芝居と講演、そして鶴見大学附属高校の生徒による復興メッセージが発表されます。夕方には「万灯供養」も行われ、訪れた一〇〇〇人を超える参詣者とともに、犠牲者の冥福と被災地の日も早い復興を念じます。

十八日（水）から二十四日（火）までの一週間は春季彼岸会です。總持寺では大祖堂が改修工事のため（三月末に竣工）、三松閣一階大ホールに於いて施食会法要が修行されます。